



「笑顔とつながり」

永田台

サステイナブルスクール

No.525 11月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
令和元年10月31日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに



未来を生きる子どもに育てたい力

校長 武山 朋子

9月の台風を引き続き、10月に入ってからも各所で大雨によるたいへんな災害が発生し、多くの方が先の見えない不安を抱えた生活を続けていらっしゃいます。やっとのことで泥を掻き出した我が家に、再び泥水が流れ込んでいる様を目にするのは、どんなにか辛いことかと胸が痛みます。みなさまの一日も早い生活の再建を願わずにはられません。

こんなにも大きな災害になるとは想定していなかった、という声が多く聞かれます。でも、もう「想定外」とは言えない、「何が起こるかわからない」「予測不能で正解がない」のが今の時代です。これからの未来を生きていく子どもたちには、いったいどんな力を育てたらよいのでしょうか。

私は後期の始業式で子どもたちに向けて、こんな力を身に付けてほしいと話しました。

1 自身の経験や学びを総動員して、新たに直面した問題の解決に向けて考える力

マニュアルを頼ることはできません。誰かが教えてくれるのを待つこともできません。自分の頭で考え、判断しなければいけないのです。

2 必ずしも正解ではないかもしれないが、あきらめずに実際に行動する力

予測不能なのですから、不正解の可能性は大いにあります。でも、それであきらめてしまっ
て何もしなければ、問題は解決しないどころか、ますます困った状況になってしまうかもしれ
ないのです。

3 自分一人で抱え込まずに、様々な人とつながり協力して取り組もうとする力

対処しなければいけないことは、多くなり複雑になりたいへんになる一方です。とても一人
の力では対処できません。だからこそ、いろいろな力をもった様々な人の力を借りればい
いのです。

授業の中で、行事を通して、日々の友達とのかかわりの中で、こうした力を育んでいく後
期でありたいと職員とも話し合い、取り組んでいこうとしています。

10月5日、夏を思わせる暑い日差しの下、本校では運動会を実施することができました。保護者の皆様、地域の皆様には、たくさんの応援をいただきありがとうございました。多くの励ましを受け、子どもたちは練習の成果をいかに発揮しました。

今年は接戦の末、赤組が優勝を果たしました。勝敗は僅差で決まったため、負けた白組の悔しさはとても大きかったことでしょう。でも、そんな白組の代表である応援団長が書いた運動会後の振り返りには、

「閉会式では得点発表の時、赤が優勝したとたん、悔しいはずなのにいちばん最初に拍手をしていて、これがノーサイドなんだと分かりました。」

とありました。副校長が9月の朝会で子どもたちに話し、先月の学校便りでもご紹介したラグビーの精神です。精一杯戦った運動会で、勝負を終えた後は「ノーサイド」であり、一つの仲間である互いの絆を確かめ合う姿がそこにはありました。

運動会という一つの行事に向けて精一杯準備し、練習し、力を出し切れたことに納得している子どもの姿に、未来を生きるたくましさや大いなる可能性を感じたのでした。